

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298900182		
法人名	有限会社たすけあい		
事業所名	グループホームたすけあい心		
所在地	千葉県香取市岩部1095-4		
自己評価作成日	令和7年12月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和8年1月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれ、日中は鳥の鳴き声、夜は虫の声を聞きながらゆったりとした環境の中、利用者様の第2の我が家を理念に、利用者様の支援をさせて頂いています。食事は、畑でとれた季節のお野菜を使い、手作りの食事を利用者様個々に合わせた形態にし提供しています。職員の関わりの中で、各利用者様のできるところに注目し、月一回のケースカンファレンス時に意見をだしあい、利用者様の個別に合わせた関わりを検討し、個別支援に反映しています。レクリエーション活動では、筋力向上、嚥下力維持に着目した体操や、レクリエーションを楽しみながら参加できるように工夫しています。最近では、利用者様同士のコミュニケーションが図れ、昼食後や夕食後、利用者様同士で集まり、会話や日向ぼっこを楽しまれ、利用者様達の笑い声も聞かれています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本施設は、大きな車道から離れた静かな環境に立地し、併設するグループホームと避難訓練や研修、調理等で効果的に連携して運営されている。家族とのコミュニケーションは極めて良好であり、「心配な点はない」という高い安心感に直結している。施設内には「明るく家庭的な雰囲気」や「家族が訪問しやすい雰囲気」があり、家族からも高く評価されている。利用者支援においては、体操や外出、外食等の機会を定期的に設け、社会との接点を持ちながら楽しみを持って過ごせるよう配慮されている。組織運営面では、会議において納得するまで議論を尽くす風土が根付いており、職員と管理者の意思疎通も円滑である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時、出勤者で理念を復唱し、意識付けしている。	理念はリビングへの掲示に加え、毎朝の申し送り時に唱和することで職員間の共有を図っている。地域交流を謳う理念の実践として、近隣の障害児を招待し利用者と共に過ごす機会を設けている。また、カンファレンスでは理念に沿ったケアが実践できているかを確認し合う場として活用し、理念に基づいたケアの質の向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアを呼んだり、イベントに参加して頂ける様にお誘いし、地域のイベントにも参加し、利用者との交流につなげている。	クリスマス会では地域の障害児を招き、利用者との交流を深めているほか、施設行事にはボランティアによるマジックショーなども取り入れている。経営者が自治会と関係を築いており、地域の秋祭りやお花見会には利用者も参加している。今後もこうした地域行事への参加や、子供たちとの交流の機会を継続して設ける方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染等により地域貢献が出来なかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議を計画し、地域の方、市役所の方、ご家族様に参加して頂き、意見を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は併設グループホームと合同で、民生委員や市職員、地域住民等を交えて隔月で開催している。会議では、外部評価やアンケート結果、ヒヤリハット等の運営状況を報告し周知を図っている。また、事業所が抱える課題についても相談し助言を求めると、サービスの質の向上に活かす体制として機能している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じ、事業者の取り組みを伝えている。わからない事は電話等で確認している。	年3回開催される香取市の地域密着型サービス連絡会に参加し、市職員や他事業所管理者との意見交換を行っている。運営推進会議に市職員が不参加の際は、議事録を持参し説明を行っている。また、複数の職員が退職した際の手続き等、不明な点は市の窓口担当者に相談できる関係性が構築されており、密接な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に行い、職員に委員会の内容を周知している。研修を年2回行い常に身体拘束を行わない支援を個々に合わせて検討し職員間で話あいをしている。	身体拘束廃止委員会を併設事業所と合同で3ヶ月毎に開催し、検討内容は会議や研修を通じて職員全体で共有している。個別の課題に対しても、チームで解決策を話し合う体制がある。日常のケアにおいても、不適切な行為があれば職員間で注意し合うなど、相互に啓発し合える環境づくりに取り組み、虐待防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	状況報告、問題点をあげ、予防、防止策を検討している。職員へ内容を周知している。年2回研修を行っている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修、外部研修にて対応できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の家族の疑問等を理解し、説明を行い納得してもらえるよう取り組んでいる。電話での対応も言い説明不足が無い様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談の掲示をしている。面会時にご家族様に、疑問に思った事など話せるように声かけしている。	家族の来訪時には困りごとの有無を積極的に尋ねるよう心掛けている。利用者に対しては、「どうしたいか」と意向を確認し、拒否があった場合でもその理由を丁寧に聴取している。衣服の選択等、日常の些細な場面でも「どちらが良いか」と本人の意思を確認する関わりを徹底し、個々の希望や思いを尊重した支援を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員の意見をくみ取り対応している。	管理者は日常的に職員へ声を掛け、休日でも電話相談を受け付ける等、話しやすい関係構築に努めている。カンファレンスでは時間をかけて議論を行い、意見の背景を含めて聴取することで、全員が納得するまで話し合う風土がある。職員の意見や気づきを尊重し、組織全体のケアの質を高めるための運営がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が主となり取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に任せられ、自らのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加、市内のネットワーク会議などに参加してサービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様の状況を訪問調査させて頂き、多職種と情報共有し、個々のニーズに合わせた支援を検討し不安なく施設環境に慣れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの話を聞きとりながら、来訪時や電話、メールなど、利用者の状況を伝えながら、関わりを持つよう		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時に多職種からの情報と訪問調査時の情報などから必要な支援を検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴や人生観などの情報収集をし、日々の生活の中に役割をもってもらい共に行いながら関係をきづいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の利用者様の様子をケアラボにて公開し、リアルタイムで状況がわかるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みあるご近所様やご友人に会えるよう配慮している。	利用者が茶道の師範であった際、弟子が面会に訪れるなど、これまでの人間関係が継続されている。家族だけでなく知人の訪問も歓迎し、手紙のやり取りも支援している。本人の馴染みの場所や生活歴については、家族や本人からの聴取に加え、前施設の記録も活用して情報を把握し、その人らしい生活の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割の共有、座席の配置、レクレーションでコミュニケーションを図りながら、利用者各々で関わりを持ち、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて電話や会う機会を作る様務めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様やご本人様から、今までの生活歴、職種、趣味などコミュニケーションを図りながら把握できるように対応している。	本人の生活歴を踏まえ、書道の先生として活動していた利用者には皆の前で手本を書いてもらい、それをきっかけに他の利用者も習字に取り組むようになっている。また生け花の先生であった利用者にはレクリエーションの場で花を活けてもらうなど、経験を生かした関わりが行われている。さらに午後の対話時間では、お茶を飲みながら昔の恋愛話などを糸口に、利用者の思いや意向を自然に引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを図り、その中でこれまでの生活歴を聞きながら支援に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアや見守りの中で各個人の得意不得意を理解し出来る事に着目し、役割を持ち活動性のある生活ができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの情報や日々の生活状況から職員で話し合い、個々にあった介護計画を作成するようにしている。	タブレットの排便記録を手がかりに医師や看護師と相談し、服薬時間をずらしたり薬を変更したりしながら必要な支援をケアプランに加えている。日中眠りがちな人には外に出る機会をつくり、家族の願いに寄り添って立ち上がり維持の運動や嚥下を助ける発声練習を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット導入により、写真や動画を、個別記録ができ、職員間での共有がしやすく、介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対応するようできている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれの状況を把握しながら、今後活用できるように検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診、定期受診を行っている。必要に応じて往診、訪問歯科を依頼しながら、支援している。薬のかんりは、必要に応じて薬局、看護師との連携にて支援している。	利用前からのかかりつけ医に家族と通う人が3名おり、他の6名は主治医の訪問診療を受けている。利用前からのかかりつけ医から得た情報を施設で把握し、変化があれば主治医へ伝えて診てもらえる体制をとり、タブレットの記録も看護師から必要に応じて主治医に見せ情報共有を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を配置している為、常に相談し、早期に対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時なるべく早く退院できるよう、連携室や家族と連絡を取り合いながら対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ早い段階でご家族と密な話し合いや相談を受け、医療、看護、介護の連携を図り、情報を共有して支援している。	看取りは今年度2件あり、入院後に亡くなられた方もいた。重度化が進み、食事がとれなくなったり目が開きにくくなったりした段階で医師に状況を伝え、家族とも気持ちを確かめながら看取りの体制を整えている。ホームでは静かに見守る一方、他の利用者には普段どおりの生活を続けてもらえるよう配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成をし、事故発生の予測、急変時の対応、事故発生時の対応を、即座に対応できるように日々の申し送りや会議時に周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い意識付けするように強めている。	9月に同法人内で隣接するグループホームたすけあいと合同で日中火災を想定した避難訓練を実施し、利用者も職員の誘導で中庭駐車場へ移動している。BCPIに基づく発電機操作訓練や、災害時の食事提供を見据えた毎月の炊き出しを行うなど、実践的な災害対策が進められている。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の方の対応について研修を行ったり、職員間で利用者様の情報を共有し、個々に合わせた対応が出来るよう心がけている。	5月に同法人内のグループホームたすけあいと合同で認知症ケア研修を行い、思いやプライバシーを尊重する視点を学んでいる。日頃の会話から得た情報をカンファレンスで共有し、娘を亡くした利用者には共通の趣味である水泳の話題を用いて関わりを工夫するなど、個別性に配慮した支援が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、本人の思いや要望が引き出せるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせてながら、対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の話聞き、要望を聞き取り必要に応じて出来る限り希望に沿った対応が出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々それぞれの嗜好を把握し、出来る事は行ってもらいながら、支援している。	食べられないことが負担とならないよう普通食ややわらか食、一口大など形態を工夫し、見栄えを重視した盛り付けにも配慮している。外食イベントは隣接するグループホームたすけあいと共同で企画し、手作りを取り入れたイベント食では利用者も参加しながら食事の時間を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアラボの記録や食事状況から、必要に応じて、必要な栄養が取れるように、個々に合わせた食事量や食材を検討し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアのこえかけ、必要に応じた介助や訪問歯科を取り入れながら支援している。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、それぞれに対応しながら、ご本人様が不快にならない様に寄り添いながら支援している。	排泄記録をタブレットで管理する体制が定着し、職員負担の軽減と効率化が進んでいる。記録のデータ化により排尿量減少の要因把握が容易となり、症状との関連分析が進み、個々の健康管理に有効に活用されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをしながら、個々に合わせた運動や飲食物の対応をし予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の嗜好に合わせた入浴介助になるように配慮している。	入浴日は設定しつつも本人の気分を尊重して時間や日程を柔軟に調整し、入浴中は会話や歌を通じてゆったりと過ごせる時間をつくっている。また、入浴前のバイタルチェックや滑り止めマットの使用、室温管理など安全面への配慮も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンがあり、ご自分のペースで過ごせる様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師、薬剤師と連携を図り、必要に応じて相談しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で出来る事や、個々の納涼に合わせ、役割や嗜好を考慮して、日々のコミュニケーションの中で探りながら対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症で遠くの外出は減っているが、近くにお花見に言ったり、毎日の散歩は行っている。	午前中は全員が屋外で散歩し陽を浴び、利用者が自然に体操を始めたり歌を口ずさむ姿も見られる。年間行事の外出はグループホームたすけあいと共同で計画し、4月の桜とチューリップ、5月のバラ園、6月の紫陽花などの見学を数日に分けて実施している。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かり、買い物は、職員代行したり、移動販売では、本人が好きな物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	必要に応じて連絡できる様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作になる様努力している。散歩等でとってきた草花も飾ったりしている。	季節感を保つため、利用者と職員が折り紙などで季節の飾りを共同制作し、リビングに彩りを添えている。一日の生活に変化を持たせるため、お茶や体操、入浴、レクリエーションなど多様な活動を取り入れる工夫がされている。また、敷地内のシェアハウス住人が訪れ、イベントに参加することで交流が生まれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置も考慮し、リビングでそれぞれの居場所を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こだわりのある利用者様には、心地よく過ごせるように努め、要望に対応できるよう努めている。	利用者がこだわる布団やこたつ、座椅子などは持ち込みを認め居室での安心感を高めている。一人で落ち着いた時や身体の負担を和らげ褥瘡を予防するためにベッドで過ごす時間を設けており、安全面では家族の了承を得てドアを少し開け職員が見守れるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の部屋、リビングの座席、分かりやすく掲示し、必要に応じて声掛けし気を配っている。		